

教師海外研修とは？

教師海外研修の目的

JICAは、諸外国との関係や異文化理解の学習について、国際協力を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、積極的に支援を行っています。この教師海外研修は国際理解教育・開発教育に関心をお持ちの先生方に、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な協力活動を視察してもらい、帰国後に授業等を通して生徒たちの国際理解を推進していただくことを目的としています。

応募条件

四国4県の国公立・私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、高等専門学校、特別支援学校教員及び教育委員会の指導主事等で、応募締切時点で年齢が原則50歳以下であり、所属長または教頭の推薦が得られる方(JICAから海外に派遣された経験のある方は除きます)

派遣時期

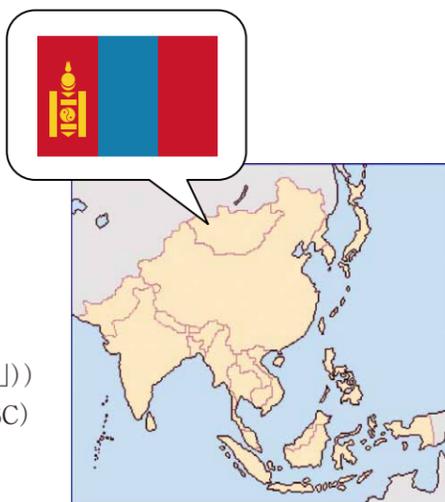
毎年7月下旬～8月上旬の約10日間

募集時期

毎年4月

平成24年度の研修国「モンゴル」について

- (1) 正式名称 (和文)モンゴル国
(英文)Mongolia
- (2) 政 体 共和制(大統領制と議院内閣制の併用)
- (3) 人 口 281万1,600人
(2011年、モンゴル国家統計委員会(以下「NSC」))
- (4) 首 都 ウランバートル(人口128万7,100人)(2011年、NSC)
- (5) 面 積 156万4,100 km²(日本の約4倍)
- (6) 民 族 モンゴル人(全体の95%)及びカザフ人等
- (7) 言 語 モンゴル語(国家公用語)、カザフ語
- (8) 宗 教 チベット仏教等(社会主義時代は衰退していたが民主化(1990年)以降に復活。
1992年2月の新憲法は信教の自由を保障。)
- (9) 一人当たりGDP 2,562米ドル(2011年、世界銀行)
- (10) 主要産業 鉱業、牧畜業、流通業、軽工業



【参考】「外務省ホームページ — 各国・地域情勢 —」外務省



教師海外研修のながれ～年間スケジュール～

1. 派遣前研修 ◆平成24年6月9日(土)～6月10日(日) @香川県

【1日目】

JICA事業説明やモンゴルに派遣されていた協力隊OBからモンゴル事情や体験談を聞き、JICA事業及び研修の流れ・派遣国について理解を深めました。また、国際理解教育基礎講座では、授業で使える参加型手法や教材を実際に体験しながら、学びました。

【2日目】

昨年度参加教員による研修報告並びに実践授業紹介と、参加教員間で事前の打合せを行ないました。



2. 海外研修 ◆平成24年7月29日(日)～8月8日(水) (11日間)

※日程、詳細は次ページ以降をご参照ください。

3. 第1回帰国後研修 ◆平成24年8月25日(土)～8月26日(日) @高知県

【1日目】

2学期の実践授業に向け授業計画を予め作成し、参加教員間で発表を行い、意見交換を行ないました。

【2日目】

国際理解教育セミナーに参加し、モンゴル研修の報告を行いました。その後、「水について考える」ワークショップを体験、参加型手法について学びました。

4. 各校での授業実践 ◆平成24年9月～平成24年12月

帰国後研修で意見交換をした授業計画を基に、各学校で授業を実践しました。



5. 帰国後研修 特別編 ◆平成24年12月8日(土) @高知県 黒潮町

青年研修「モンゴル／初中等理数科教育コース」の研修員13名と意見交換の場を持ちました。テーマは「教員生活の中で嬉しいこと／辛いこと」。テーマを基に、日本、モンゴルの教育事情や教員の状況など、お互い質問を投げかけ、交流を深めました。



6. 第2回帰国後研修(実践授業報告会) ◆平成25年2月16日(土)17日(日) @香川県

【1日目】

2学期以降に各々が実践した授業について発表を行い、その後、実践授業を通して、直面した課題や悩みを共有しました。

【2日目】

国際理解教育指導者研修において、海外研修の様子や実践授業について、一般参加者に向けて発表しました。また、食文化を考える教材体験や参加者との意見交換を通じ、今後の教育活動において使える「ネタ」「ヒント」を得る機会となりました。

海外研修 日程表

◆ 1. 期間：平成24年7月29日(日)～8月8日(水)【11日間】

◆ 2. 日程

| 月 日 | 曜日 | 時間 | 訪問先及び研修内容 | 目的 |
|------|----|----------------|--|--|
| 7/29 | 日 | 12:10 19:50 | 関西国際空港 → 仁川 仁川 → ウランバートル | 日本→モンゴル移動 |
| 7/30 | 月 | 09:00 | JICA モンゴル事務所訪問 ・モンゴル国事情紹介 ・JICA 事業紹介 ・安全対策・健康管理ブリーフィング | モンゴル国事情についての概要説明とJICA 事業の紹介 滞在中の安全確認など理解する。 |
| | | 14:00 | 日本大使館表敬 | 2国間の外交の歴史と昨今の両国関係について理解を深める。 |
| | | 16:00 | 日本人墓地参拝 | 日本モンゴル間の歴史について学習すると共に、戦争の悲惨さ、異国の地でお亡くなりになった方々へ参拝する。 |
| 7/31 | 火 | 10:00 | 私立新モンゴル高校訪問 ・現地日本語教育現場視察 ・本邦教師による授業実践 | 学校設立の目的と生徒の学習状況などについてサマースクール(補講形式)を視察。 |
| | | 14:00 | Save the Children Japan 施設訪問 ・子供たちとの交流 ・日本の遊び紹介 ・よさこい踊り披露 | 様々な要因で家に帰れなくなった子どもたちの日常生活に触れることにより、モンゴルの抱える問題について考える。また、日本文化の紹介により学校に通えない子どもたちにも世界というものを理解してもらう。 |
| 8/1 | 水 | 09:00 | ガンダン寺視察 | ウランバートル随一の寺院視察 |
| | | 10:30 | UN ハビタット(ゲル地区)事業視察 | 国連ハビタットの事業内容について現場視察を実施。ゲル地区の抱える水問題などの理解を深める。 |
| | | 14:00 | JICA ボランティアとの面談・活動内容紹介 | 青年海外協力隊・シニアボランティアの方々の実際の活動内容・問題点などに触れ、現場活動についてより具体的な知識につなげる。 |
| | | 16:00 | 3日間の振り返り | 3日間の出来事・気づきについて振り返り、帰国後の授業にどう活かすかなど情報共有する。 |
| 8/2 | 木 | 09:30 | JICA 技術協力プロジェクト現場視察 ・ウランバートル市廃棄物管理能力強化プロジェクト | 環境分野での日本の支援現場を視察し、国際協力への理解を深める。 |
| | | 11:30 | 砂浜美術館Tシャツアート展視察 | 高知県黒潮町の主催するTシャツアート展の視察を通して継続的な交流を続けるNPO団体について知る。 |
| | | 14:00 | 公立第97番学校訪問 ・青年海外協力隊員活動報告 ・モンゴル教育事情について | 学校の基本方針・重点分野について聞き取り、青年海外協力隊員の実際の活動現場視察と授業内容について情報収集する。 |

| | | | | |
|-----|---|-------|--|---|
| 8/3 | 金 | 10:00 | 民族博物館視察 | モンゴルの人々の暮らし、広大な土地での各民族の特徴などについて学習する。 |
| | | 14:00 | 自然博物館視察 | モンゴル国についての地質学的・歴史的考察 |
| | | 20:00 | ザイサンの丘視察 | 日本とモンゴルまた、周辺国との関係について、記念碑を通じて学習する。 |
| 8/4 | 土 | 終日 | 遊牧民ゲルホームステイ | 遊牧民生活を体験することにより、家族の絆・遊牧民文化などを体感する。 |
| 8/5 | 日 | 終日 | 遊牧民ゲルホームステイ | 遊牧民生活を体験することにより、家族の絆・遊牧民文化などを体感する。 |
| 8/6 | 月 | 09:00 | テレルジ子供キャンプ訪問 ・滞在中の生活について聞き取り ・日本の遊び紹介 ・よさこい踊り披露 | 小学1年生～大学生まで幅広い年齢層が集まるサマーキャンプの視察と日本の遊びを紹介することによる国際交流のきっかけづくり |
| | | 16:00 | テレルジ国立公園亀石視察 | 国立公園視察 |
| 8/1 | 火 | 10:00 | 振り返りミーティング | 日本とモンゴルまた、周辺国との関係について、記念碑を通じて学習する。 |
| | | 10:45 | JICAモンゴル事務所研修報告会 | モンゴル事務所職員への研修報告 |
| | | 11:15 | 高知モンゴル親善協会交流 ・代表からの事業紹介 ・生徒たちとの交流 | 日本への留学経験のある学生やこれから高知へ留学する学生たちとの交流により、授業実践・学校への招へい事業などに活用していく。 |
| | | 14:00 | モンゴル国営放送局視察 | 国営放送局の日本語放送局の歴史と教師海外研修についての事業紹介を収録。 |
| | | 15:00 | 教材・資料収集 | 必要教材・資料の収集 |
| 8/8 | 水 | 09:05 | 仁川 → 関西国際空港 | モンゴル→日本 移動 |

